

令和 8 年度 第 1 回学校運営協議会記録

1 日時

令和 8 年 5 月 25 日（月） 15:00～16:00

2 場所

本校会議室

3 参加者

（1）学校運営協議会委員 7 名

A 委員（学識経験者）

B 委員（教育関係有識者）→御欠席

C 委員（福祉関係者）

D 委員（PTA 関係者）→御欠席

E 委員（企業関係者）

F 委員（地域関係者）

G 委員（福祉関係者）

H 委員（行政関係者）

校 長（本校職員）

（2）本校職員 9 名（委員の校長も含）

校長 副校長（小・中・高）、事務長、総括教務主任、学部主事（小・中・高）

4 内容

（1）開会のことば

（2）校長あいさつ

学校運営協議会は令和 5 年度から始まり 4 年目となる。これまでの 3 年間で、地域と学校の基本的考え方の整理や体制づくりが進展した。本日は令和 8 年度の学校経営計画および地域連携の取組を中心に協議したい。

（3）委員・職員紹介

自己紹介

（4）会長・副会長選出

会 長…G 委員、副会長…A 委員

・会長・副会長挨拶（G 委員・A 委員）

これまでの経緯を踏まえ、学校運営協議会の役割を果たせるよう努める。

（5）協議

ア 令和 8 年度学校運営計画について

校長説明：

①令和 8 年度学校運営計画（資料 p. 3～5）について

学校教育目標等（理念・目指す子どもの姿等）は変更なし。生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、心豊かで主体的に生きる人を育成する。

Ⅵの学校運営の重点は、主に昨年度を踏襲し、文言を微修正した。重点目標 6 点に加え、7 点目として「教職員が健康に仕事へ向き合える環境整備、業務適正化・働き方改善の推進」を新規で追加した。これは県の働き方改革方針を踏まえたもの。詳細は後段アクションプランで説明。

②学校経営計画（資料 p. 6～7）について

「3 目指す学校像 (1)今年度の重点目標の達成指標」を見直した。今年度、教職員評価を新たに追加し、児童生徒・保護者・教職員の三者評価とした。ア～カの目標値は、令和7年度実績を根拠として、昨年度以上を目指す方針で設定した。

・特に質問・意見等はなく、アについて承認された。

イ 令和8年度地域連携について

総括教務主任説明：

①復興教育推進計画について（資料 p. 8）

復興教育の3本柱は「いきる・かかわる・そなえる」。令和5年度から整理・推進し、昨年度の「花咲く丘プロジェクト2025」を経て、今年度は2026版として充実を図る。

地域と関わり、段階的な学びを進める。「地域を知る」を土台とし、地域資源を活用したより実践的な学習で「地域とつながる」。そして、高等部で「地域に貢献する」へと応用していく。

②花咲く丘プロジェクト2026について（資料 p. 9）

プロジェクト1では「りんごでつながろう」、プロジェクト2では「ひがしの日でつながろう」をテーマとして展開する。

E 委員：

地域連携について、町内とつながるのは非常に良いこと。可能であれば、最終的には、全て自分たちで作る、作った製品を販売するなどできれば良い。努力して前に進む、商売を通してお金を稼ぐ、などの経験を積んでほしい。

F 委員：

今年の春先に、教員と生徒がりんごの花の視察に訪れた。今後の育成状況を観察したいとの申し出もある。ぜひ来ていただきたい。

・以上、イについて承認された。

ウ 令和8年度働き方改革アクションプランについて

校長説明：

①現状について

プランとしては最終年度を迎える。定量的には、月80時間超の時間外在校等時間はここ数年ないが、月平均30時間以上の職員割合が増加傾向にある。定性的には、取り組みを通して教職員および管理職の業務マネジメント・業務改善の意識は高まっている。

②今年度の数値目標

時間外在校等時間が月平均30時間以上の職員割合を15%以下とする。年次休暇は15日以上を目標とする。最も大事にしたいのは「目指す姿」に記載の2点。

③具体的取り組み内容

業務内容の廃止・減少は難しいが、会議改革を進めている。効率的で負担の少ない会議運営を推進する。

④周知方法

職員会議で職員へ、HPで保護者への周知を図る。

A 委員：

職場でも会議を減らそうとしているがなかなか減らず、現実的には難しい。職員が意識

して取り組むことが大事であり、意識改革が必要。

H委員：

言語化・可視化して共有することで意識が変わるため、素晴らしい取り組みである。

・以上、ウについて承認された。

エ 令和8年度学校運営協議会開催計画について

副校長説明：

昨年度まで年3回提案が基本だったが、今年度は年2回とすることを提案したい。地域連携の枠組みは3年間の協議を経て整理され、昨年度から実装段階に入った。今後は実践・評価のフェーズであり、年度当初と年度末の2回でも意見聴取は可能と判断した。

・各委員の賛同を得て、エについて年2回開催で承認された。（第1回：本日／第2回：2月頃予定）

（6）報告

ア 令和7年度特別支援教育センター業務状況について

副校長が資料の通り説明した。

イ 令和8年行事予定について

総括教務主任が資料の通り説明した。

（7）各委員から

A委員：

この会をととして学校運営の様子について理解できた。今後もより良い特別支援教育の普及に向けて協力していきたい。

C委員：

働き方改革アクションプランに関心を持った。特に、業務の明確可・適正化の推進において、国や県といった外部機関からの調査依頼が数多く来る中で、所属長が判断・精選して対応するという点が参考になった。

E委員：

地域連携においては、様々な人と会って、話して、体験するということが一番の学びになる。長年事業所を運営しているが、面接の際には、同じ人間として特別視はしていないことを伝えている。また、所内の職員には、「我々は職員ではなく伴走者である」と伝えている。先生方も生徒の思いや悩みを聞きながら多くの苦労があると思うが、働き方改革を推進しながら、活躍してほしい。

F委員：

自身がこれまでに従事した職業においては長時間労働が多かったが、学校においては先生方の健康を考え、働き方改革を率先して進めていただきたい。

G委員：

卒業生を受け入れて、一緒に働いている。利用者に合った労働時間や作業内容になっており、部署によってそれぞれが能力を発揮でき、それが経済活動への参加につながっている。施設が工夫して多くの利用者を受け入れるよう準備する必要があると感じている。これまでは生活支援施設だったが働く場として受け入れたい。

H委員：

先生方の高い意識と教育にかける思いが伝わった。一生懸命に子どもの教育に取り組ん

でいるのを感じた。教員も守りつつ、保護者も意識した素晴らしい取り組みである。「ひがしの日」で子どもたちの様子を見たい。

校長：

開校8年目の若い学校である。これまで作り上げてきたものに令和5年度から学校運営協議会委員の協力をいただき、様々な取り組みが進んでいる。意見・提言・励ましをいただいたことを職員全体で共有しながら取り組みを進めたい。子どもたちを見ていただき、情報発信を工夫しながら、本校の取り組みをご理解いただけるように進めていきたい。

(8) 閉会のことば